2024年度第3回一橋大学政策フォーラム

金利のある世界

2024年3月に日本銀行は
マイナス金利をはじめとする
異例の金融政策の終了を宣言した。
金利は今後徐々に上昇し、
日本経済は約25年ぶりに
「金利のある世界」に戻っていくものと見られる。
この間、政府債務の累積など、
政策当局を取り巻く環境は大きく変わっている。
本政策フォーラムでは、
最新の研究成果をもとに、
プラスの金利が日本の経済政策に
どのような可能性と困難をもたらしうるかを
明らかにする。

講演者

氷見野良三
日本銀行
副総裁

武藤一郎
日本銀行
調査統計局 参事役

宮本弘曉
財務省財務総合政策研究所
総括主任研究官／
一橋大学経済研究所 非常勤研究員

パネリスト

関根敏隆
一橋大学大学院経済学研究科 教授／
一橋大学国際・公共政策大学院 教授

福田慎一
東京大学
大学院経済学研究科 教授

左三川郁子
日本経済研究センター研究本部
金融研究室長兼首席研究員

開会挨拶

大月康弘
一橋大学 理事・副学長／
社会科学高等研究院長

座長

塩路悦朗
一橋大学
社会科学高等研究院 特任教授

日時
2025 1.30(木) 15:00〜17:30

開催場所
一橋大学千代田キャンパス
1階大講義室(対面開催)
東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
学術総合センター内

参加費
無料(申込期日:2025年1月16日(木)13時)
※要事前申し込み。定員に達した場合は、受付を終了します。

申込方法
https://forms.gle/9f5yJvWdC4GDvNaF8
※URLもしくはQRコードより申込フォームにアクセスしてください。

お問合せ
一橋大学社会科学高等研究院　グローバル経済研究センター事務局
https://glecs.hias.hit-u.ac.jp/contact-us/

(主催) HiAS Hitotsubashi Institute for Advanced Study / 一橋大学社会科学高等研究院 GLECS グローバル経済研究センター Research Center for Global Economic Systems / HITOTSUBASHI 150th

※都合により登壇者が変更となる場合があります。

2024年度第3回一橋大学政策フォーラム

金利のある世界

2024年3月に日本銀行はマイナス金利をはじめとする異例の金融政策の終了を宣言した。
金利は今後徐々に上昇し、日本経済は約25年ぶりに「金利のある世界」に戻っていくものと見られる。
この間、政府債務の累積など、政策当局を取り巻く環境は大きく変わっている。
本政策フォーラムでは、最新の研究成果をもとに、プラスの金利が日本の経済政策にどのような可能性と困難をもたらしうるかを明らかにする。

プログラム

15:00～15:05…開会挨拶 大月康弘 一橋大学 理事・副学長／社会科学高等研究院長

15:05～15:10…趣旨説明 関根敏隆 一橋大学大学院経済学研究科 教授／一橋大学国際・公共政策大学院 教授

15:10～15:30… **特別講演** 氷見野良三 日本銀行 副総裁

15:30～16:20… **基調講演** ＜座長＞塩路悦朗 一橋大学社会科学高等研究院 特任教授

第一報告
「賃金・物価上昇のメカニズムに関して」
武藤一郎 日本銀行調査統計局 参事役

第二報告
「日本の財政持続可能性と財政政策効果」
宮本弘曉 財務省財務総合政策研究所 総括主任研究官／一橋大学経済研究所 非常勤研究員

16:20～16:25 …… 休憩 ……

16:25～17:25… **パネル討論** ＜座長＞塩路悦朗 一橋大学社会科学高等研究院 特任教授

＜パネル討論者＞
福田慎一 東京大学大学院経済学研究科 教授
左三川郁子 日本経済研究センター研究本部 金融研究室長兼首席研究員
関根敏隆 一橋大学大学院経済学研究科 教授／一橋大学国際・公共政策大学院 教授

17:25～17:30…閉会挨拶 塩路悦朗 一橋大学社会科学高等研究院 特任教授

講演者

氷見野良三
日本銀行
副総裁

1983年東京大学法学部卒業、大蔵省入省。1987年ハーバード大学経営学修士(MBA)。1999年から金融監督庁・金融庁に勤務。バーゼル銀行監督委員会事務局長などを経て、2020年金融庁長官。2021年東京大学公共政策大学院客員教授。2023年3月より現職。

武藤一郎
日本銀行
調査統計局 参事役

1997年東京大学経済学部を卒業後、日本銀行入行。2002年米国ブラウン大学経済学修士、2008年神戸大学経済学博士。日本銀行では、主として企画局、調査統計局、金融機構局、金融研究所などのリサーチ部署で調査研究に従事。展望レポート、金融システムレポート等の作成に加え、マクロモデルを用いた金融政策、フィリップス曲線、期待形成などに関する分析を行い、多数の論文執筆。青森支店長を経て、2024年6月より現職。

宮本弘曉
財務省財務総合政策研究所
総括主任研究官／
一橋大学経済研究所 非常勤研究員

2000年慶應義塾大学経済学部卒業、2009年ウィスコンシン大学マディソン校にて経済学Ph.D.取得。国際大学教授、東京大学公共政策大学院特任准教授、国際通貨基金(IMF)エコノミスト、東京都立大学教授、一橋大学経済研究所教授を経て現職。専門は労働経済学、マクロ経済学、日本経済論。著書に『日本の財政政策効果 高齢化・労働市場・ジェンダー平等』(日本経済新聞出版)、『私たちの日本経済』(有斐閣)など。

パネリスト

関根敏隆
一橋大学大学院経済学研究科 教授／
一橋大学国際・公共政策大学院 教授

1987年東京大学経済学部卒業。日本銀行入行。2001年オックスフォード大学経済学博士。国際通貨基金、国際決済銀行へ出向の後、企画局参事役、調査統計局経済調査課長、高松支店長、国際局兼企画局審議役を経て、2015年に調査統計局長、2019年に金融研究所長。2020年7月に日銀を退職、8月より現職。

福田慎一
東京大学
大学院経済学研究科 教授

1984年東京大学経済学部卒業。1989年にイェール大学より経済学博士号を取得。その後、横浜国立大学助教授(1989－92)、一橋大学助教授(1992－96)、東京大学経済学研究科助教授(1996－2001)を経て2001年より現職。マクロ経済学、金融、国際金融が専門で、近年では日本の長期停滞の原因を主に研究。近著に、『21世紀の長期停滞論: 日本の「実感なき景気回復」を探る』(2018年、平凡社新書)、『高まる地政学的リスクと日本経済』(2024年、東京大学出版会)などがある。

左三川郁子
日本経済研究センター研究本部
金融研究室長兼首席研究員

1990年に日本経済新聞社入社、1997年に日本経済研究センター出向。2007年に外務省出向、在英国日本大使館専門調査員、2019年一橋大学経済研究所准教授、2024年より現職。専門は金融政策、金融論。主な著作に、『マイナス金利政策』(2016年、日本経済新聞出版社、共編著)、『金融正常化へのジレンマ』(2018年、日本経済新聞出版社、共編著)。

(主催)社会科学高等研究院(HIAS)グローバル経済研究センター(GLECS)　※都合により登壇者が変更となる場合があります。